ＪＡゆり葬祭センター　広報誌

第16号
令和２年
３月１日

かけはし

特集「お互いさまを見直してみよう」

2009年2月15日　祖母の葬儀の日に架かった虹。振り返れば、あの年も暖冬で新型インフルエンザが流行した年でした。　（撮影：佐藤正人）

身寄りなき老い人逝きて弔（とむら）ひの準備は村の人らがつとむ

賀祥山 禅林寺 第四十世　山中（やまなか） 律雄（りつゆう）

かつて農村社会は、村八分（むらはちぶ）にされても火事と葬式は村の住民が助け合ったり、「結（ゆい）」といって互助的に行う協同労働がありました。例えば田植えのような短期間に集中的に労働力を必要とし、家族労働だけでは足りない場合に複数の農家が労働力を出し合って、それぞれの家の田植えを順番に行っていくというものでした。今のように労働の対価をお金で精算するものではなく、それは「お互いさま」の精神に基（もと）づくものでした。

しかし近年、農業の機械化や兼業農家の増加は社会変化をもたらし、「ひとに迷惑を掛けたくない」といった意識が強くなりました。地域の互助であった葬式も「家族葬」など、ご会葬者を制限したり、密葬で行い「葬儀終了」の記事も見られるようになりました。

時代とともに社会が変化していくことはやむを得ませんが、これからの高齢化社会にあたって「お互いさま」の精神を見直していくことが大切ではないかと思います。

特集

お互いさまを見直してみよう

インタビュー

お葬式を体験された方に心境などを伺ってまいりました。

センター長・終活カウンセラー　佐藤正人

山本さん（仮名・50代女性）

佐藤　先日、四十九日を終えたばかりですね。別れの悲しみは収まることがないと聞きますが現在の心境はいかがですか？

山本さん（以下 敬称略）　思い出しては悲しみが湧いてきます。家も空き家になってしまいこれからどうしようかと心配です。

佐藤　亡くなられたのは実家のお母さんでしたね。兄弟はどなたかいらっしゃいますか？

山本　妹がいますが、離れて暮らしています。

佐藤　何かあったら自分がという思いでいらっしゃったのですね。

山本　もちろんそのつもりでした。

佐藤　お母さんが体調を崩されたのはいつ頃でしたか？

山本　少し前までは百歳まで生きてくれるかな（笑）と思っていましたが、体調を崩したのは亡くなる2ヶ月くらい前でした。

佐藤　どんなお母さんでしたか？

山本　うーん…。難儀したんだろうなって。亡くなってからいろんな方から、今まで知らなかった母の様子など教えてもらいました。教えてもらってはじめて知らないことが多かったと思いました。

佐藤　自分で見てきた姿と近所の人たちが接してきたことには違いもあるでしょうね。

山本　とくに若い頃のことってわからないじゃないですか。「子供のころ、こんなことしたんだよ」とか。お友達が話してくれて。

佐藤　お葬式に来てくれた方からそういったお話を伺ったのですね。慰めになったのではないですか？

山本　慰めっていうか…。「ありがたいな」って思いました。忙しくて慌ただしかった中もお話を聞いたり、お手紙をいただいたことがとてもうれしかったです。いろんな方とお葬式を機会にお話できたことは…そう慰めになりました。

佐藤　お母さんから亡くなったらこうしてほしいといったことはありましたか？

山本　特にないですが、日記のようなものを見つけて、今日、何あったとか。一行程度なんですが。それを見たとき嬉しいっていうか。悲しいっていうか。複雑な気持ちになりました。

佐藤　わかります。遺された文字は確かにそこにいたという記録ですからね。お父さんはだいぶ前に亡くなられたのですか？

山本　十年以上前。父もあっという間に亡くなったのですが、父が亡くなったときより母を亡くしたときの方がずっと悲しかったです。

佐藤　その大きな違いは何でしょうか？

山本　うーん…。もう誰もいないということもあります。それと父が亡くなってから一人暮らしだった母は「なんでおれどご残して逝ったべな」ってよくいっていました。悲しみを…なんていうのだろう…。慰めてあげられなかったかな、というのもあります。一緒にがっちり気持ちに寄り添うことをしないで過ごしてしまったかなと。

佐藤　肉親であっても、悲しみに寄り添うって難しいことですよね。

山本　ご主人から解放されて伸び伸びしているという方もいないわけではないでしょうけれど。

佐藤　お母さんの場合は？

山本　一人暮らしでしたが、やれることは何でも一人でやっていました。「雪寄せなんていいから」っていっても弱々しい体でやっていたようです。

佐藤　看病をしていてどんなことを思いましたか？

山本　お葬式のことも考えました。もうそろそろかなって。どんな風にしたらいいかなって。心の準備はしていましたが、でもそのときになってみなければわからない。スタートできないって思っていました。「誰にお知らせしたらいいのかな」くらいで…。始まらなければ何も決まらないっていう感じでしたね。

佐藤　もっと生きてほしいという思いもあったでしょうね。ところで、当社のホールでお葬式を行おうと思ったのはなぜですか？

山本　寒い季節だったので、家でやるには迷惑を掛けそうだったから。いろんな準備も整わないし。泊まる人がいてもできないし。あと年配者が多いので椅子席のほうがいいのもありました。でも地域の風習では自宅でやるとか、せめてお寺でやるのが一般的なので、通夜は自宅でやることにしていましたが、お葬式をホールで行うことがいいのかなという思いもありました。

佐藤　ホールでお葬式をするにあたって事前相談はされましたか？

山本　パンフレットをいただいただけでした。

和室で行う葬儀の一例　（※本文とは関係ございません。）

佐藤　実際、使ってみていかがでしたか？

山本　控室として和室を使うのは程よい広さでした。控室を家族葬の部屋として使うこともあると聞きましたが、それにしてはもう少し広いほうがいいと思います。控室より広い場所があればそちらでも良かったです。お葬式は式場を使いましたが、我が家では広く感じました。

佐藤　他のお客様からも中間の広さの式場を要望されていますので検討してまいります。

山本　広さについてはどうかなと思いましたが、スタッフの皆さんにとてもよくしていただきました。本当に何も解らなかったので、ひとつひとつ細かく声を掛けていただき助かりました。しかし「どうしますか？」に答えなければならないことがたくさんあり過ぎて困りました。

佐藤　確かにそうですね。確認することが多いですからね。こうしたらどうでしょうかという提案型にしたらいいですね。ご意見ありがとうございます。

山本　「みなさんこうやっていますよ」といっていただければスルスルっといくのにと思いました。

佐藤　ホールでおこなったことについては割り切ることができましたか？

式場での葬儀の一例　（※本文とは関係ございません。）

山本　妹がむこうで義母さんのお葬儀をお寺に行ってパッとやって終わった感じで自宅には連れてこなかったので、「なに、全部ホールでやってもらえばいいのに」とあっさりしていましたが「ダメダメ。家に連れて来なくちゃだめ」と反対しました。

佐藤　田舎では家へのこだわりがありますからね。でも当社のホールをご利用される方の半数は安置から入られています。また、身寄りのない叔父や叔母のお葬式を行うことも多くなっています。家族葬といわれますが、どのような葬儀かといわれれば定義が曖昧だったりしています。来てくれる方を制限する場合もありますが、ご会葬者を制限するようなことは考えていましたか？

山本　制限することは考えませんでした。来ていただける方には来ていただきました。それで良かったと思います。家族で寂しくというより、皆さんに集まっていただきお話できたことが何よりでした。

佐藤　それはよかったですね。最近は田舎で近所付き合いがあるにも関わらず、「弔問をご遠慮します」という方がいらっしゃいます。どうするかはその家の自由なので傍から良し悪しはいえないのですが、弔いに行こうと思っているご近所の方から戸惑いの声を聞きます。「これから、あそこの家とはどう付き合っていけばよいのか」と。

山本　うんうん。それと病院から家に帰らないでそうした施設で葬式をされると近所の方が「行かれない」「行けない」ということもあります。母もそういうとき、「行けないでしまった」と言っていましたので、家には

帰らなければと思っていました。今までもお世話になっていたし、自宅に戻ることによってまたお世話になることにはなりますがね。

佐藤　家の方の他人に迷惑を掛けたくないという気持ちもわからなくはありませんが、そういうものではないですよね。

山本　そういうものではないでしょう。お互いにお世話になっているのだから、「お世話になりました」とも伝えたいです。

佐藤　来ていただいた方にいろんな話を聞くことができましたね。

山本　そうですね。…母ともっと話をしたかったなと思います。

佐藤　お葬式の後もいろいろ大変と思いますが、家のこととか相続の手続きなど順調にすすんでいますか？

山本　まだやっていないこともありますが忙しいですね。

佐藤　どのような手続きがありましたか？

山本　亡くなった届け出。年金の関係の手続きとか。公共関係のこととか。ストップするとか。名前を変えるとか。

佐藤　家はどうされるのですか？

山本　まだ仏さんがあるので、もう少しそのままにしておきます。仏さんを拝みに通っています。しばらくは今のままにしておきます。

佐藤　初棚があれば、そこに集まるでしょうしね。

山本　仏さんがいるので、私がやれるうちは維持していこうと思います。

佐藤　将来のこととしてお墓はどうなると思いますか？

山本　亡くなったばかりなので、それまでは考えられません。

佐藤　「こんなサービスがあれば」と思うことはありませんか？

山本　遺品の整理があればいいと思います。家の処分まではいかなくとも家の中の整理が大変なので、お任せできればありがたいです。そういう仕事の要望もあると思いますよ。

佐藤　そうですね。遺品整理業者との連携も考えてみます。相続でお困りのことはありませんでしたか？

山本　ひとりでなんとかやっています。

佐藤　ＪＡが窓口になって、相談にのってくれると助かりますね。

山本　ＪＡに関係するところはやっていただきましたが、取り寄せる書類とか多くて、こちらは悲しみで重い気持ちなのに…。やることが多くて眠れない日々を過ごしました。みなさん、こういうことやっているのでしょうけど。

佐藤　お葬式。人が亡くなることって大変なことですよね。

山本　ひとりの人がやってきたことって凄く大きいことだと思いました。残された人が片付けなければならないことも大変です。

佐藤　よく「子どもたちに迷惑がかからないように」と聞きますがご自身はどのように思いますか？

山本　すっきりしておきたいなと思いました。いらないものは「もういらない」って(笑)。

佐藤　家の中の物ばかりではなく、気持ちのうえでも？

山本　断捨離っていうか。終活ですね。

佐藤　私、終活カウンセラーをしていましてエンディングノートの書き方のお手伝いをしています。終活っていうと自分のお葬式のことばかりをイメージされる方がいますが。

山本　それは全然思っていないです。死んでからのことはだれかにお任せでいいと思います。それ以外のいろんなことを考えたいですね。

佐藤　終活ってこれからをどう生きるかに思いを寄せることですからね。私、肖像写真の撮影も行っています。いざというときのために、とっておきの笑顔の写真を残してあげたいと思っています。お母さんの写真はいい写真が見つかりましたか？

山本　なんとか見つかりました。でも写真撮られることが嫌いな人だったのでいい写真がなくて。お葬式の前に流すスライドは作りませんでした。私も写真撮られるのが好きじゃなくて人の影になったような写真が多いです(笑)。

佐藤　ぜひその素敵な笑顔を残しておきましょう(笑)。ご主人の写真は人形供養祭のとき撮影コーナーで撮らせていただきましたよ。

山本　「俺は撮ってある」といってます(笑)。どこにしまってあるのかわかりませんけど(笑)。

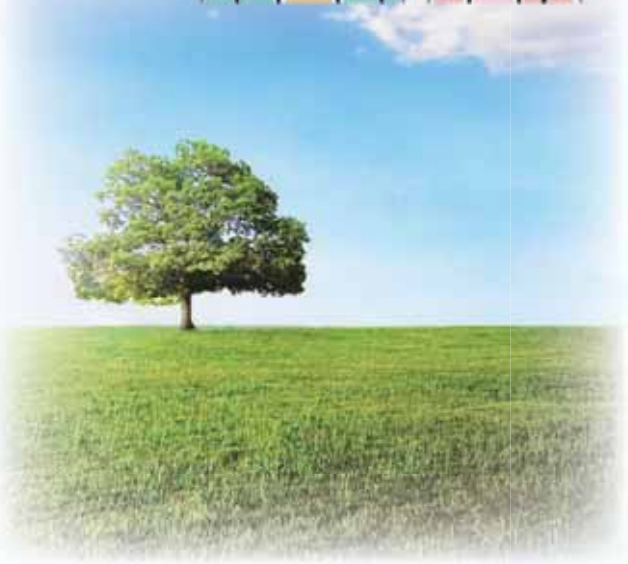
佐藤　最近、お葬式に対する重みが軽くなってきたように思いますが、お葬式を行う意義というのは、人に迷惑をかけながらも最期に人の助けをかりて、故人のことをあらためて知るということですね。

山本　全くそのとおりです。

佐藤　お寺さんの執り行う儀式についてはどう思いますか？

山本　お寺さんが来てお経をあげて送り届けることだと思います。私たちだけではどうにもできませんから。

佐藤　本日は貴重なお話をありがとうございました。



インタビューを終えて――

「お互いさま」で生きてきたのだから「最期も迷惑をかけていい」に共感しました。

日本の親は「人に迷惑をかけるな」としつけますが、インドの親は「あなたは人に迷惑をかけて生きているのだから人のことも許してあげなさい」と教えるそうです。前者は息苦しさを感じ、後者はホッとするものを感じます。そもそも他人に迷惑をかけないで生きることなんてできないでしょう。オギャーと産まれてから成長の過程でたくさんの迷惑を掛けながら生きてきました。やがて歳をとればだれかのお世話になるわけで、死を迎えてもひとりではどうすることもできません。

仮に迷惑をかけてしまった場合、過度に罪悪感や劣等感に苛(さいな)まれる人も多いのではないでしょうか。そうした息苦しさが、自殺やひきこもりにつながっているように思います。中高年のひきこもりも年々増加していると聞きます。

社会全体が「どうしたら人の役に立てるのか」「困っている人を助けるにはどうしたらよいか」に重点をおく必要があるでしょう。

これからの地方は人口減少や限界集落など、マイナスのイメージでとらえる見方もありますが、人口の1％の若者が移住・定住し、地域内の経済が循環することで持続を可能とする考え方もあります（藤山浩『田園回帰1％戦略』）。その根幹となるのが「お互いさま」の精神だと思うのです。

「結(ゆい)」にみられる先人の思想は人間主義であり、温かな連帯意識を育んできました。地方は都市と比べるとハードの面では劣っているかもしれませんが、ソフト（精神面）では、人情として今も息づいています。元々あった「お互いさま」の精神をあらためて認識し、地域づくりに生かしていきたいものです。

話を葬儀に戻します。今までも迷惑をかけてきたのだし、最期も迷惑をかけてよいと思います。都会のマンション暮らしならいざ知らず、数十年間あいさつを交わし、喜怒哀楽を共にしてきた仲です。時には災害に見舞われ、助けたり助けられたりした間柄です。義理としてではなく、心の底からの感謝の思いや弔いの気持ちがあると思うのです。

お葬式はお世話になった気持ちを伝え合う「ありがとう」の場なのだと思います。また、故人の歩んできた人生を再確認する大切な機会でもあります。そして、それを経(へ)ることによって、遺族は明日へ進むことができるのではないでしょうか。

虹のホールゆり・虹のホールしらゆきのご案内

※料金はすべて税抜表記です。

●ホール式場葬儀

白木祭壇コース　200,000円(税抜)　会員 170,000円(税抜)
生花祭壇コース　390,000円(税抜)～　会員 331,500円(税抜)～
会場使用料・祭壇・供物・司会進行・電照写真・思い出の写真など

●和室葬儀　100,000円(税抜)　会員　85,000円(税抜)
会場使用料・祭壇・供物・司会進行など

◆安置料金〈24時間〉
30,000円(税抜)
会員　25,500円(税抜)
24時間以降12時間毎に15,000円(税抜)加算

◇詳細については事前相談されることをおすすめします。　お問い合わせ／各ホール・センター本店

お客様の声

様々な無理をお願いしたりして大変ご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。でもそれを全部聞いてくれて家族一同大変満足しています。

〈S様〉

担当者の対応、説明、満足出来るものでした。初めて喪主として葬儀を行いましたが、いろいろ助かりました。ありがとうございました。

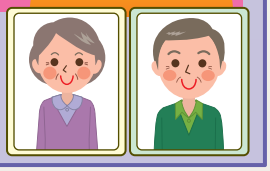
〈S様〉

JA葬祭 みどりの会 会員募集中

入会金10,000円で『終身会員』となり、ご家族(※)どなた様でも特典をご利用いただけます。
※同居されているご家族様

みどりの会会員様は 撮影無料

例えば 笑顔の肖像写真 撮影に伺います
後日、2Lサイズにプリントしてお渡しします。
(2Lサイズ：約127×178㎜)



エンディングノート

書き方講座 承ります
各種グループや個人でもお申込みください。
☎ 090-4880-1097まで
終活カウンセラー　佐藤正人

生花や花環など供物代金のお支払いに
〈本店・各ホール〉
クレジットカードご利用できます
今なら5%ポイント(2020年6月まで)還元中

事前相談 承ります

葬儀について不安に思っていることがございましたら、お気軽にご相談ください。

編集後記

今回のテーマを何にしようか定まらないまま「とりあえずお客様から話を聞こう」と決めてインタビューに向かいました。そこで得たキーワードが「お互いさま」でした。ちょっと忘れかけていたような。懐かしくて温かみのある言葉だと思います。

最近参加した地域フォーラムでも「お互いさま」で過疎の村を運営している事例がありました。おそらく地域づくりのためにも「お互いさま」は重要なキーワードになりそうです。

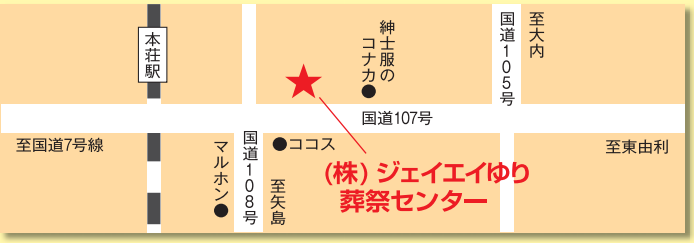
また、よく耳にするSDGS(エスディジーズ)の「誰ひとり取り残さないことを目指し、先進国と途上国が一丸となって達成すべき目標」。これもまた「お互いさま」の精神ではないか。

そこで良いフレーズが思い浮かびました。

「お葬式は『お互いさま』のための儀式です」

どこかで聞いたような…。

(佐藤)



㈱ジェイエイゆり葬祭センター

本店／〒015-0852 由利本荘市一番堰200-1

0120-2468-08

☎ 27-1718　FAX 27-1715

メールアドレス：jayurisousai@clock.ocn.ne.jp

JA葬祭 虹のホールゆり
由利本荘市川口字八幡前41-1
☎ 23-7716　FAX 23-7717

JA葬祭 虹のホールしらゆき
にかほ市三森字三嶽森41-1
☎ 62-8171　FAX 62-8172

年中無休・24時間受付